

令和5年度第1回県立障がい福祉施設評価員会議 議事要旨

- | |
|------------------------------|
| 1 日時： 令和5年9月5日(火)13:00~16:30 |
| 2 場所： 岐阜県庁舎議会棟2階 第2会議室① |
| 3 議題： 令和4年度の事業報告について |

【主なご質問・ご意見】

<陽光園>

《評価員からの質問・意見》

- ①指定管理を継続する上での課題とそれに対して取り組んでいることは何か。(A評価員)
- ②人材に関する課題とそれに対して取り組んでいることはあるか。(A評価員)
- ③研修の内容はどのようなものか。(C評価員)
- ④利用者の意見を聞いていることや、よい支援をするため職員の悩みに対してもアプローチしていることは評価できる。(C評価員)
- ⑤利用者の日中活動を大切にされていること、発生した事故をよく把握し、原因や予防策が考えられており、よいと思う。(D評価員)
- ⑥職員がスキルアップするための研修の機会を今後も提供し続けてほしい。(D評価員)
- ⑦地域移行ができない人のための施設であるため、今後の身体障がい者施設のあり方を考えてほしい。(E評価員)

《指定管理者からの回答》

- ①施設の老朽化が最も大きな課題であり、入所希望者が少ないことも課題である。
入所者増のために、入所待機者とその家族への働きかけや、市町村や相談所への協力を依頼している。
- ②人材が不足している中、利用者の重度・高齢化に伴い、多様な人材が必要となっていることが課題。多様な人材の育成のため、障がいの特性を学ぶ研修を実施している。
- ③利用者の重度・高齢化に合わせて知的障がいや認知症の支援方法についての研修を行っている。

<三光園>

《評価員からの質問・意見》

- ①指定管理を継続する上での課題とそれに対して取り組んでいることは何か。(A評価員)
- ②人材に関する課題とそれに対して取り組んでいることはあるか。(A評価員)
- ③個別支援計画を作成する上で、利用者の意見を聞いているか。三光園の工夫はあるか。(C評価員)
- ④第三者の視点を取り入れる取り組みと改善に至った事例はあるか。(D評価員)
- ⑤施設が選ばれにくい原因とその改善策を限られている環境の中でも考えてほしい。
まずは、重度の身体障がい者施設の実態を知ってもらう必要がある。(E評価員)

《指定管理者からの回答》

- ①施設の老朽化が課題。多床室であるため、利用者から選ばれにくく、空床が埋まりにくい。利用者が豊かに生活できるよう、口腔ケア等、機能低下防止のための指導を受けて実践している。
- ②職員も利用者と同様に高齢化が進んでいる。長く働ける職場を維持できるよう福祉用具の導入や、随時相談を受けつける対応をしている。
- ③個別施設計画の作成の会議には、利用者本人にも参加してもらっている。実習生から三光園のよいところ・改善すべきところを聞き、支援に生かしている。
- ④月1回外部から委員に来てもらう「なんでも相談」のほか、年2回地域からも意見をもらう経営委員会も開催している。部屋の改善や物品の要望等を聞いた。

<サニーヒルズみずなみ>

《評価員からの質問・意見》

- ①指定管理を継続する上での課題とそれに対して取り組んでいることは何か。(A評価員)
- ②人材に関する課題とそれに対して取り組んでいることはあるか。(A評価員)
- ③権利擁護のための研修が、日常における支援にどのような影響、効果や成果があったか。(C評価員)
- ④事故の改善をどのようにしたか。事故後には利用者だけでなく、職員のメンタルケアも大切である。(D評価員)
- ⑤7人が退所した理由は何か。(B評価員)
- ⑥事故をきっかけに何か体制を整えたということはあるか(E評価員)。
- ⑦利用者家族の都合に合わせて面会を行うようなことは行っていないのか。(C評価員)
- ⑧自分の力を培うための自己評価も大切だが、第三者の意見も取り入れてほしい(C評価員)
- ⑨在宅で生活している障がい者にとって、障がい福祉施設へのイメージがよくないため、施設のイメージアップ策を考えてほしい。(B評価員)
- ⑩施設への期待感が大きいため、限界があることには説明をしていく、地域移行をしていく、モニタリングで利用者の様子を家族に伝える等の対応ができると思う。(D評価員)

《指定管理者からの回答》

- ①施設の老朽化と多床室であることが課題。2人部屋でも利用者間でトラブルは発生する。
- ②施設がある地域全体の衰退による社会資源不足が今後懸念されている。
- ③利用者への声掛け改善等に取り組み少しずつ変化はあるが、まだまだこれからである。
- ④職員には、慌てず、一人で抱え込まないことを伝え、全員で解決することを意識している。
- ⑤退所者は逝去が大半。それ以外は、高齢者施設や病院に移行した。
- ⑥利用者が亡くなるリスクもあるため、普通救命や心肺蘇生等の研修を実施している。施設は万能ではなく、亡くなるリスクがあるということを家族に事前に伝えるようにしている。
- ⑦事前連絡があればいつでも面会可能だが、令和4年度は面会の自粛をお願いしていた。

<幸報苑>

《評価員からの質問・意見》

- ①指定管理を継続する上での課題とそれに対して取り組んでいることは何か。(A評価員)
- ②人材に関する課題とそれに対して取り組んでいることはあるか。(A評価員)
- ③転倒事故は職員がいない時に発生したものか。(D評価員)
- ④職員のやる気向上のため、職員の取り組みを表彰することはあるか。(C評価員)
- ⑤現在の利用者の状況から、三光園との統合を検討してもよいと思う。(E評価員)
- ⑥福祉の仕事へ携わるモチベーションを自身で自覚できるような環境を管理者が整えてほしい。(D評価員)
- ⑦職員が取り組んだことについては表に出にくく表彰されることは少ないため、職員がやりがいを感じながら取り組んだことが評価されるようになってほしい。(E評価員)

《指定管理者からの回答》

- ①利用者の高齢・重度化への対応方法が最も課題である。多床室であることにより、利用者の不満へつながっていることもある。
- ②利用者の高齢・重度化に伴い必要となった移乗介護等の技術の習得に取り組んでいる。職員の利用者に対する接遇面の改善にも取り組みたい。
- ③自立度の高い利用者で、居室の中で事故が発生した。
- ④(※B評価員から回答)社会参加推進センターにて、施設職員の勤続年数や取組について表彰するシステムがあるため、ぜひ活用いただきたい。

<ひまわりの丘>

《評価員からの質問・意見》

- ①指定管理を継続する上での課題とそれに対して取り組んでいることは何か。(A評価員)
- ②人材に関する課題とそれに対して取り組んでいることはあるか。(A評価員)
- ③県民からの意見が報告書では0件だが、意見収集はどのような方法か。(B評価員)
- ④同じ方向に向かって支援できた手ごたえがあったとの報告について、具体的にどのようなものだったか。(C評価員)
- ⑤学校といった施設外の環境でのいじめが施設内に持ち込まれることはあるか。その対応はどのようにしているか。(C評価員)
- ⑥第三者評価を受けた結果をどのように活用されたか。(C評価員)
- ⑦成人施設への移行はスムーズにできているか。(D評価員)

《指定管理者からの回答》

- ①第一学園…措置の施設であるため、定員40名が埋まらないことが課題。
(埋まらないというよりは、②のようなこともあり埋められないという現状)
第二学園…利用者の平均年齢は若いですが、身体障がいのある利用者がいるため、建物の構造の見直しが必要などところがある。
- ②第一学園…人材不足のため、施設のユニットすべてを活用できていない。ユニットを活用できれば、利用者はもう少し余裕ある生活ができる。

第二学園…施設のユニットが離れている中、職員不足もあり、職員間の連携がとりにくいことが課題。

- ③報告書では、意見箱への投書、「なんでも相談」、相談員への相談を集計している。
職員への直接の相談は随時ある。
- ④職員が支援する上で困難さがある利用児をピックアップしてケース研修をしたものである。
他害が多い利用児だったが、同じ目標を掲げ支援したところ、他害減少の成果があった。
- ⑤第一学園内での喧嘩について、学校からいじめではないかと指摘されたことはある。
- ⑥2施設ともにより評価で特に指摘はなかった。よい結果に甘えず、励みにしていきたい。
- ⑦移行先の空きは少なく、探すことは容易ではない。年齢超過児とならないよう早めからアプローチすることで移行先を決定できている。

<みどり荘>

《評価員からの質問・意見》

- ①指定管理を継続する上での課題とそれに対して取り組んでいることは何か。(A評価員)
- ②人材に関する課題とそれに対して取り組んでいることはあるか。(A評価員)
- ③令和3年度の虐待事案の原因をどのように整理されたか。(C評価員)
- ④研修でインプットした知識を職員はどのようにアウトプットしていくのか。(C評価員)
- ⑤今後も利用者の障がい特性を理解した上での支援を長期で取り組み、利用者が落ち着ける環境になるよう考えてほしい。(D評価員)

《指定管理者からの回答》

- ①年齢や障がいの程度が幅広く、それぞれが混在して生活している状況が最大の課題。
- ②人材不足である中、高齢化で身体機能が低下した利用者と、強度行動障がい個別支援が必要な利用者それぞれの支援に人手が必要な状況となってきたことが課題。
- ③職員に専門性がなく、利用者の特性を十分に把握していなかったこと、周囲に他の職員がいても止められなかった組織の体制に問題があった。
- ④職員自身が講師になり、職員へ研修をすることによりアウトプットすることを計画している。

<はなの木苑>

《評価員からの質問・意見》

- ①事故の対応について、もう少しできることがあったのではないか。(D評価員)
- ②見守りカメラで事故を振り返ればよいとの状況になってはいないか。(E評価員)
- ③現場で問題になっていることや今後について現場の声を発信して、それを基に施設の環境を考えてほしい。(E評価員)
- ④福祉施設だけの課題となってしまうものを、社会全体の課題とするため、施設の現状を発信することや利用者の支援によって結果を出すことが大切だと思う。(C評価員)

《指定管理者からの回答》

- ①事故発生後には、対策について職員で話し合い共有している。
- ②職員の死角での事故の原因を見つけ、対策を考えるツールとして、見守りカメラは活用している。